

令和8年4月14日 令和8年度第1回県立学校長会 大石教育長挨拶

入学式、お疲れ様でした。桜は新入生を待ってくれたかと案じておりました。3学年揃うと電車も賑やかで、新年度が始まったと実感します。今回、制度の変更のあった入学者選抜の円滑な実施、また年度末人事異動に御協力いただき、お礼を申し上げます。

先ほど、異動のあった先生方の御紹介がありました。それぞれの学校をよろしくお願ひします。私は組織における管理職は機能であると常々申しているのですが、その機能を果たすためには何をすべきか、何ができるかといった知識が、校長自身に必要です。今までの御経験の上に知識を積み上げ、それぞれにお任せした学校の経営に当たっていただきたいと思ひます。私学無償化の影響が避けられない中、公立高校の魅力化は待たなしです。従来、義務教育ではない高校は設置者で、というスタンスだった文科省も、DXハイスクール以来、支援の姿勢を見せてくださっていて、2月には「高校教育改革に関する基本方針」として「N-E.X.T.ハイスクール構想」が示されました。その実現のため、パイロットケースとして先導的な学びの在り方を構築する高校を選定する手続きを、本県でも進めているところです。これに限らず、これからの高校教育はどうあるべきか。県教委としては、就職であれ進学であれ、生徒の自己実現に向けて社会に最も近い高等学校と、経済界や産業界、大学等との連携の仕組みを整える取組を進めていますが、その仕組みを活用しつつ、現状やニーズを把握し、それぞれの学校のスクールミッションを踏まえて生徒にどのような教育を提供するか、楽しんで考えてください。特別支援学校についても同様です。「校長が変われば学校が変わる」と言われますが、そういった例を実際いくつも見てきました。校務をつかさどる校長の権限、いわゆる校務掌理権は相当大きく、その気になればかなりのことができますので、当然と言えば当然です。例年、学校経営の観点として、御自身が高校生だったら行きたいと思う学校、保護者だったら子どもに行かせたい高校、特別支援学校を目指していただきたいとお願ひしています。また校長として、「よい校長」を目指してください。若い頃に出会った校長先生、主任や部長として接した校長先生、皆さんにも心に残る管理職がいらっしゃると思ひます。生徒がよい先生に出会ふのが幸せなように、教職員から出会ってよかったと思われるような校長を目指してください。

先日、新規採用の先生方の辞令交付式に出席しました。式の後の講話で、困ったら上司や先輩に相談するように、きっと助けてくれると言っております。自分も初任の頃、それでなくても経験がないのに毎日新鮮な事案が起こり、定時制のやんちゃな子達に振り回されて、教頭先生や先輩に支えていただいてなんとかやっていました。新採だけでなく、異動直後の先生も、環境が変わり不慣れという点では同じです。十分なコミュニケーションをとっていただき、先生方の不安を取り除きながら、適性等見いだして育成をお願ひします。管理職が早期に悩みに気づき対応することで、先生方の不調をある程度防げると考えます。御自身の若手の頃も思い出して、長い目で見ていただき、大切に育ててください。各校にお預けした教職員が、今後の奈良県教育を支えることになるのですから。

その講話の中で、学校は行けば何か楽しいことがある、「どきどきとわくわく」、これは瀬尾まい子さんの小説『私たちの世代は』からの引用なのですが、その「どきどきとわくわく」があるところでなくてはならな

い、そのためには、学校生活で最も長い時間を占める授業が面白くなくてはならないと申しました。どんな仕事でも、年月を経ると手慣れてきて要領はよくなり、一見うまくなったように見えるのですが、新鮮な気持ちを持ち続けることは難しい。いつまでも新鮮な心持ちで子どもに接し、教材に接することが肝要で、そのためには、教える側が探求心を失わないことだと。そして、NHKの「プロフェッショナル仕事の流儀」という番組で、昭和3年生まれで今も現役の鰻職人の金本さんが、「仕事に探求心がなくなったら、その時点でそれは『作業』になる」とおっしゃっていたことを紹介しました。「仕事を作業にするな」と。授業者がもっとよい授業をしたいと思っているか、その教材を面白いと感じているか、子どもたちはそういうところに敏感です。また、多くの弟子を育てた金本さんは、「教えるとは、飽きずに我慢すること」だともおっしゃっていて、うまくいかなくても諦めたり、自分を責めたり、くじけたりせず、子どもたちの力を信じて根気よく導いてほしいとお願いしました。校長先生方も、各学校の生徒のために、新採はもちろん、先生方を導いてください。

また、一生「先生」と呼んでもらえる教員という仕事のすばらしさと、必要な覚悟についても話しました。つい先日も、教え子が近くに来たついでに寄ってくれて、何か面白い本はと尋ねられました。私は、教え子からおすすめの本を紹介してほしいと言われることが、教員として何よりうれしいことだと思っています。それは、生徒から信頼されていると感じることができるからです。久しぶりにそう言われて紹介したのが、伊与原新さんの『宙わたる教室』です。教え子は私が顧問をしていた部活のキャプテンで、将来はロケットを飛ばしたいと言うので、読んで面白かった宇宙関係の本を渡したりしていたのですが、当時は志望の宇宙工学科に届かず、それでも諦めきれずにアメリカに留学したりいろいろな仕事をしたりして、少々気に掛かる子でした。結果的には、途中採用でJAXAに御縁をいただき、今は飛行士のインストラクターをしています。半ば夢を叶えたと言ってもいいのですが、その彼から二日後には「読みました。泣きました。」とLINEがきました。感想は思いのほか短いものでしたが、頑張って速く読んだんですね。NHKでドラマにもなったのでご存じの方も多いと思いますが、東京の夜間定時制高校に赴任した教員が科学部を作って、という話です。宇宙に関係することと、先ほども申したとおり、私自身教員のキャリアを夜間定時制でスタートした懐かしさもあって紹介したのですが、ぐっとくる台詞が多いのです。例えば、1年で退学した元生徒がけたたましい排気音を立てながら、バイクでグラウンドまで生徒をかまいに来ます。こんなこともよくあったので、懐かしい。で、対応する教師に、お前ら教師が自分たちに何をしてくれたと言うのか、と悪態をつきます。科学部の顧問、藤竹先生は、こう言います。「待っているんですよ。我々定時制の教員は、高校生活を一度あきらめた人たちが、それを取り戻す場所を用意して待っている。あとは生徒たち次第です」。「取り戻せるかボケ」と嘲笑を浮かべる中退生に、「取り戻せますよ。この学校には、何だってある。教室があり、教師がいて、クラスメイトがいる。ここは、取り戻せると思っている人たちが、来る場所です」と。学校には教室があつて、先生がいて、仲間がいて、うまく行かなくても取り戻す気になれば取り戻せるんだ。本当にそう思います。

この小説は、大阪府立大手前高校定時制、春日丘高校定時制の科学部が、日本地球科学惑星連合の大会の高校生セッションで優秀賞を取った実話を基に作られています。私達教員は、うちの学校では無理だとか、あの生徒がこんな大学に、こんな仕事に進めるわけがないとか、目の前の生徒の力を、こんな

ものだろうと見積もってしまうことがないでしょうか。『宙わたる教室』には、「人間は、その気にさせられてこそ、遠くまで行ける」という台詞があるのですが、奈良県の生徒達に、この学校に来なかったら、この先生に出会わなかったら、こんなに遠くまで来ることはできなかった、と思ってもらえたら、学校として、教師として、こんな幸せなことはないと思います。

当職3年目になります。常に現場を感じられるように、高文連をお願いして高校生の作品を執務室に展示して毎日眺め、来客にも御覧いただいています。また着任以来、年に一度は各県立学校を回らせていただいております。1年目は学校施設中心に、2年目はおもしろい授業をとお願いしました。今年も回るつもりなので御協力ください。高校は「面白い授業」、具体には「生徒も先生もワクワクするような授業」「生徒の知的好奇心を刺激し、頭が常に活動しているような授業」を見せていただきたい。各学校ともお忙しいので、この2年言い続けてきた①学校の魅力化と②生徒に裁量を、の2つの取組については、現状と課題を事前に提出いただき、必要な確認を行いたいと考えています。特別支援学校は昨年度に引き続き、授業や児童生徒の活動を見せていただきたい。詳しくは、特別支援教育推進室から連絡を差し上げます。

県内私学で発生した落雷事故から1年、直近では近府県で研修旅行中の事故もありました。年度の初めに各校の安全管理マニュアルの確認をされると思いますが、必要な更新を行い、すべての教職員が共有するようお願いして、私の挨拶とします。1年間、よろしくお願いいたします。